

臨床福祉専門学校
言語聴覚療法学科 平成29年度 第一回教育課程編成委員会 議事録

日時：平成29年8月1日（火）13：00～14：30

場所：臨床福祉専門学校 201 教室

出席委員及び所属

田村 満子（NPO法人 こども発達療育研究所理事長）

園田 尚美（株式会社 言語生活サポートセンター 代表取締役）

内藤 明（言語聴覚療法学科 学科長）

阿部 裕実（言語聴覚療法学科 教員）

記録：樋口 豊朗（事務局 教務課主任）

1. 学科長挨拶 敬心学園の将来的改編計画（報告）

現在敬心学園では、平成31年4月開校を目標に、専門職大学を設立する予定である。専門職大学はこの臨床福祉専門学校の校舎を使用する形となる。ST学科自体は、専門職大学設立時には学科として設けないが、姉妹校である日本福祉教育専門学校と統合して新たな専門学校として開校する。

教育課程編成委員会自体は、職業実践専門課程に認可されている事から、継続してより実践的な人材養成の為のカリキュラム作成に活かしていく予定

2. (意見交換)

内藤：ここ数年の本委員会において、委員の協力も得ながら、入学後早期の現場見学を実現した。STの職種の理解をさらに深める為に、知識を多少身に付けた1年次終了時点（臨床実習に行く前）での再度の現場見学を検討事項としていたが、それとは別に、改めて現場が求めるSTを育てる養成施設としての実践的な取り組みについて再確認する場としたい。

田村：小児分野の現場においては、子供に触れた事がない、接し方に自信がないと言うSTも増えている。養成施設で学ぶ間に、理論は身に付くが実践力に乏しいという認識を持った。

内藤：養成施設側の立場として、職業理解という意味合いでの現場見学は、ある意味キッカケ造りとして間違っていない。

園田：患者それぞれの背景（家族構成・病気・人生）をとにかく知るという意識をまずは持つ事が必要、その上で医療人として、この患者の人生を背負うという使命感を持って欲しい。養成施設としては、ただ学習するだけでない人材育成が必要とされる。

田村：患者に対する分析能力も必要、ある事例を示し、それを要約する訓練が必要。本質を捉えて文章化していくという事をやってみてはどうか？

園田：現場で行う事前検討会においても、事例を出せるSTが少ない、理想としては、色々な職種が混ざるのが良いと思うが、養成施設では難しいと思うので、せめてディスカッションできる能力・もしくはそれに慣れて欲しい。

内藤（まとめ）

：臨床実習に行く前に、演習の授業において、委員に協力をして頂き成人・小児、それぞれの分野から実際の事例を出してもらい、それに対して学生がディスカッション形式で検討する。それを最終的に現場で付け合せ（症例を観る事が難しければ動画でも可）ができるような取組みを平成30年度のカリキュラムの一環で導入できるのか、学内でも検討し、第二回の委員会の場で具体的な深掘りをしたい。